

安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進事業

【令和8年度予算概算決定額 510（602）百万円】

＜対策のポイント＞

食品安全、動物衛生、植物防疫等の問題発生の未然防止や発生後の被害拡大防止のため、行政施策・措置の決定に必要な科学的知見を得るための研究（レギュラトリーサイエンスに属する研究）を、内容に応じて柔軟に規模や期間などを選択して実施します。

＜事業目標＞

- 安全な国産農畜水産物の国内外への安定供給に資するため、食品安全・動物衛生・植物防疫・水産防疫の行政施策・措置に反映可能な科学的知見（有害化学物質等の低減技術、高感度分析法、難防除病害虫の防除技術、家畜用ワクチン、疫学データ等）を取得 [令和11年度まで]

＜事業の内容＞

1. 課題解決型プロジェクト研究

シーズ研究から応用・開発まで、我が国の研究勢力を結集して総合的・体系的に推進すべき長期的視点が求められる大規模な研究を実施します。

（研究費・研究実施期間）

- 研究費：課題ごとに設定
- 研究期間：原則5年

2. 短期課題解決型研究

現存する技術シーズや知見を活用して、1～3年程度で成果が見込まれる比較的小さな研究課題を短期的・機動的に実施します。

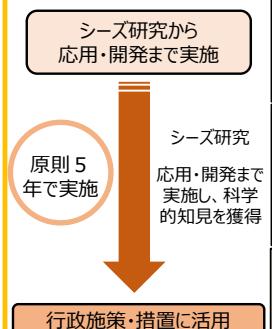
（研究費・研究実施期間）

- 研究費：3,000万円以内/年
- 研究期間：原則3年以内

※レギュラトリーサイエンス：科学的知見と、規制などの行政施策・措置との間を橋渡しする科学。
※PFAS：パーカルオロアルキル化合物及びポリカルオロアルキル化合物。約1万種以上あるとされている人工の有機フッ素化合物（PFOA、PFOS等も含む）の総称。
※PFOA：パーカルオロオクタン酸。水や油をはじく性質があり、調理器具のフッ素樹脂加工、紙の表面処理剤等に用いられてきた有機フッ素化合物。
※PFOS：パーカルオロオクタンスルホン酸。水や油をはじく性質があり、撥水剤、表面処理剤、泡消泡剤等に用いられてきた有機フッ素化合物。
※CSF：豚熱（CSF）ウイルスの感染によって、豚やイノシシに発熱、呼吸障害等を起こす伝染病。
※ASF：アフリカ豚熱（ASF）ウイルスによって、豚やイノシシに発熱や全身の出血性病変を起こす致死率の高い感染症で、我が国の家畜伝染病のひとつ

＜事業イメージ＞

① 課題解決型プロジェクト研究



ア 未来の食品安全プロジェクト

- 動物への蓄積性を示す有機フッ素化合物（PFAS）について、農地土壤、水等からの移行特性の解明に関する研究
- 気候変動を考慮したかび毒汚染実態解明に関する研究 等

イ 動物衛生対応プロジェクト

- CSF清浄化及びASF防疫体制強化のための技術開発促進プロジェクト
- 新たな感染症の出現に対してレジリエントな畜産業を実現するための家畜感染症対策技術の開発（**拡充**）

ウ ワンヘルス・アプローチ推進プロジェクト

- 環境への抗菌剤・薬剤耐性菌の拡散量低減を目指したワンヘルス推進プロジェクト

② 短期課題解決型研究



＜新規課題例＞

- 海外から不正に持ち込まれた畜肉製品の迅速畜種鑑別法の開発
- カキのノロウイルス検査法に関する研究
- 令和7年4月改正の「安全な農畜水産物の安定供給のためのレギュラトリーサイエンス研究推進計画」別紙に示す優先危害要因等を対象とした研究を実施
- （研究課題例）
 - 国産豚熱マーカーウクチン及びワクチン抗体識別用ELISAキットの開発に関する研究
 - テンサイシストセンチュウ対策に導入可能性のある輪作候補作物の防除効果及びリスクの評価に関する研究
 - 麦角アルカロイド類の筋収縮作用に基づく毒性評価に関する研究

＜事業の流れ＞

国

委託

民間団体等
(公設試・大学を含む)

[お問い合わせ先] 農林水産技術会議事務局研究開発官室 (03-3502-0536)
消費・安全局食品安全政策課食品安全科学室 (03-3502-5722)

安全な農畜水産物安定供給のための包括的レギュラトリーサイエンス研究推進事業のうち

② 短期課題解決型研究

【令和8年度予算概算決定額：73（90）百万円】

事業内容

食品安全、動物衛生、植物防疫等の分野において、適切なリスク管理措置等を講じるため、現存する技術シーズや知見を活用して、法令・基準・規則等の措置の決定に必要な科学的根拠を得るための研究を機動的に実施。

実施中の研究課題例

国産豚熱マーカーウクチン及びワクチン抗体識別用ELISAキットの開発に関する研究

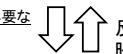
動物衛生上の問題点

ワクチン接種を継続しつつ、豚熱清浄化を目指すために、野外株感染豚と識別可能なマーカーウクチンの使用が必要。また、マーカーウクチンを接種した豚と野外株感染豚を識別するためのELISAキットも同時に開発を行う必要がある。

行政施策・措置

開発されたワクチン及び識別ELISAキットを用いて、迅速に豚熱感染個体の摘発、淘汰を行う。また、精度の高いサーベイランスを実施し、豚熱清浄化を推進。

行政施策・措置に必要な
科学的知見



反映

研究開発

マーカーウクチン候補株の有効性の持続期間の検証及び必要に応じて効果持続のための手法の検討を行う。また、当該株の遺伝子組換え部位(Erns)発現タンパク質を用いた抗体検出間接ELISAキットの開発を進める。

テンサイシステムチュウ対策に導入可能性のある輪作候補作物の防除効果及びリスクの評価に関する研究

植物防疫上の問題点

長野県の一部地域で緊急防除を実施しているテンサイシステムチュウ(Hs)について、Hsが確認された地域で通常の営農活動を早期に再開させつつ、本線虫の再発生又は発生を防止するために、より効果的な防除技術の確立が必要である。

行政施策・措置

Hsに対する防除対策の高度化を図り、必要に応じて緊急防除に関する省令等の防除措置に係る内容の見直し等の検討を行う。

行政施策・措置に必要な
科学的知見



反映

研究開発

評価に適した供試シストの調整手順の標準化や必要な試験期間等の検討を行い、標準的なふ化促進評価手法を確立。また、輪作候補作物のHsに対するふ化促進効果及び寄生性の評価を行う。

麦角アルカロイド類の筋収縮作用に基づく毒性評価に関する研究

食品安全上の問題点

麦角アルカロイド類について、分子種ごとの毒性に関する科学的知見が不足。麦角アルカロイド12分子種の毒性強度を考慮した毒性等価係数(TEF)の設定が国際的にリスク評価及びリスク管理を進める上で課題となっている。近年、海外の一部の小麦生産国で麦角病の発生拡大が報告されているところ。

行政施策・措置

麦角アルカロイド類のリスク評価やリスク評価結果の妥当性の検証を実施する際の基礎データとして活用する。

行政施策・措置に必要な
科学的知見



反映

研究開発

麦角アルカロイド類の毒性所見である筋収縮作用の試験条件の決定、各麦角アルカロイド類の作用比較、作用メカニズムの検証を行う。

R8年度に実施する内容



R7年4月改正の「安全な農畜水産物の安定供給のためのレギュラトリーサイエンス研究推進計画」別紙に示す優先的に対応すべき危害要因等の研究を、計画的に実施。

このため、R8年度より、同計画に基づく研究課題(対象:有害化学物質・微生物、家畜疾病、植物病害虫、水産疾病)及びR7年度内に新たに発生すると想定される課題を確実に実施。

安全な農畜水産物の安定供給のためのレギュラトリーサイエンス研究推進計画

優先すべき危害要因等をリスト化

- ・有害化学物質
- ・有害微生物
- ・動物疾病
- ・植物病害虫
- ・水産動物疾病

研究成果を食品安全・動植物防疫等の施策・措置に反映することにより、安全な国産農畜水産物の安定供給が可能となり輸出促進にも貢献